

第419回白石市議会定例会 一般質問通告書

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
1	6番 平間知一	<p><b>1. 健康寿命の延伸について</b></p> <p>厚生労働省によると、2013年の男性の平均寿命は80.21歳、女性の平均寿命は86.61歳となっています。</p> <p>一方、健康寿命は男性71.19歳、女性74.21歳となっています。</p> <p>健康寿命とは、「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」を言いますが、平均寿命と比べると男性で約9年、女性で約12年の差があります。さらに問題なのが、2001年と比べて、平均寿命の伸びほど健康寿命が伸びていないことで、この傾向はその後も続いているとみられます。</p> <p>厚生労働省は、健康寿命の延伸は国民生活の充実につながるだけでなく、増大する一方の医療費・介護費抑制に不可欠として、国民の健康づくり運動「健康日本21（第2次）」で、健康寿命の延伸を中心課題と位置づけ、疾病予防と介護予防などに取り組んでいます。</p> <p>また、2014年成立した健康医療戦略推進法で、健康寿命を2020年までに1歳以上延ばす目標を掲げています。市民は、誰もが「元気で長生き」を望んでいます。健康寿命をいかに伸ばしていくか、健康寿命社会を作り上げるための施策が求められています。そのためには、特定健診の受診率を向上させることが健康寿命を延ばし、医療費適正化の有効な手法だと考えます。</p> <p>そこで厚生労働省は、生活習慣病等による医療費増加の抑制のために第2期（平成25年～29年度）における市町村国保の目標値を特定健診受診率60%、特定保健指導実施率60%と設定しました。</p> <p>本市の国保の特定健診の受診率は23年度43.7%、24年度42.3%、25年度39.7%、26年度39.4%、と年々減少傾向にあります。</p> <p>また、保健指導実施率は23年度27.3%、24年度は14.8%、25年度12.7%、26年13.6%です。早期発見や予防につなげる健診の意義が十分に認識されていないのではないかと思います。健診を受けることの意義を認識してもらうことが重要と考えます。</p> <p>そこで質問します。</p> <p>(1) 本市で掲げている25～27年度までの受診率の計画目標値は、25年度40%、26年度45%、27年度50%と、市町村国保の計画目標には達していないことから、一層の受診率向上が必要です。</p> <p>受診率の実施結果からみえる本市の目標値と課題について、お伺いします。</p> <p>(2) 特定健診の結果から、メタボ（内臓脂肪症候群）に起因する疾病等の発症を予防するため、メタボの該当者及びその予備群に対し、適度な運動と食事をはじめとした生活習慣の改善を図っておりますが、75歳を超えると介護の必要度が急激に上昇すると言</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	6番 平間知一	<p>われています。本市で掲げている25～27年度までの特定保健指導実施率の計画目標値は25年度20%、26年度30%、27年度40%で、市町村国保の計画目標に達していないことから、特定保健指導の課題は実施率の低さにあると思います。どのような対策を講じているのか、お伺いします。</p> <p>(3) 健診受診率と医療費の関係について、健診受診率が高いほど医療費が低くなるという結果がいくつかの研究で示されています。市民の健康増進という観点からも、受診率向上を図るべきです。特定健診の自己負担を原則無料にする考えはありませんか、お伺いします。</p> <p>(4) 本市では健康状況をよりの確に把握するため、独自項目として「クレアチニン検査」「尿酸検査」を追加実施していますが、さらに一層の受診向上のためにも、検査項目に「ピロリ菌検査」を予防医療の観点から公費助成の対象として追加してはどうでしょうか。</p> <p>検査は、特定健診時に採血検査からピロリ菌がいるかどうかを調べ、胃がんになりやすいかどうかを検査してもらうものです。ピロリ菌陽性者は陰性者に比べて、発生する胃がんのリスクが5倍以上であると言われていています。感染している方は、保険診療で内視鏡検査を受けることで、より効率良く治る段階のがん（早期がん）を発見できるとのことです。</p> <p>今後、高齢者の割合がますます増加していく時代に向い、胃がんを苦しむ患者さんを少しでも減らすために、また、胃がん治療にかかる医療費の増大を防ぐためにも必要だと考えます。お伺いします。</p>	
		<p><b>2. 益岡公園野球場の改修について</b></p> <p>平成28年度施政方針で表明された野球場の改修工事について質問させていただきます。</p> <p>昭和28年夏、白石高等学校野球部が甲子園大会出場の快挙を成し遂げ、これを契機に、市民の間に野球場建設の気運が一挙に高まり、昭和31年10月に野球場が建設されました。落成時には東京6大学の華、早慶戦が行われ、多くの市民で盛り上がったそうです。</p> <p>益岡公園運動場が竣工して以来、市民朝起き野球大会、各種軟式野球東北大会及び宮城県大会が開催され、さらに平成14年以降、東北6県の代表が出場する中学生軟式野球を春季大会（宮城県知事杯）、秋季大会（白石市長杯）、そして少年野球では、海老名市及び登別市との交流試合、福島・山形両県から小学生チームが参加する知事杯争奪白石交流大会を開催するなど、同球場の利用頻度は高まっております。</p> <p>しかし、竣工以来約60年余が経過し、施設全体の劣化が著しく、特にコンクリート造りのフェンスの表面が剥離しており、コンクリートフェンスに激突、傷害</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
6番	平間知一	<p>事故も発生しております。競技進行上、大変危険な状態になっており、緊急的な改修、全面的な改修工事が必要な状態です。</p> <p>今般、益岡公園野球場の全面改修工事が白石市野球協会（要望書提出）や利用者等からのご要望もあり、改修工事の運びとなっております。改修工事は、平成28年度から2年間で実施する予定で、28年度は実施設計、施設解体・撤去工等を行い、29年度以降は舗装工（グラウンド）、付帯設備工などの改修が行われるとのことですが、お伺いします。</p> <p>(1) 平成28年度施政方針の中で、花に彩られた野球場にリニューアルすると表明されていますが、具体的な整備内容について、お伺いします。</p> <p>(2) 交流人口の拡大のためのスポーツ大会開催補助金について</p> <p>各種大会などの開催による交流人口の拡大に努めると表明されています。大分県宇佐市では、スポーツ大会などの開催に要する経費補助制度があります。本市へ大会開催を誘致し、交流人口拡大のために地域経済の活性化を図ることを目的に、市内で開催する団体に対して、大会に要する経費を補助する制度を設けてはどうでしょうか。市内にある宿泊施設に宿泊する参加延べ人数を対象にしますが、お伺いします。</p> <p>(3) 改修工事のスケジュールについては、利用者の方々と十分な協議のうえ決定してもらいたいが、お伺いします。</p> <p>(4) 29年度は舗装工（グラウンド）、付帯設備工などの改修などが行われるとのことですが、現状は、球場付設本部事務室の設置・グラウンド改修（傾斜レベル0にする）・暗渠の整備・内外野クッションラバーフェンス整備・ダッグアウト浸水対策・観客席の整備（木製をプラスチックにする）・電光BSO、得点掲示板の設置等が緊急的な改修工事と考えられますが、お伺いします。</p> <p>(5) 改修にあたり、県立白石高校のグラウンドのあり方などの課題をどのように捉えているのか、お伺いします。</p>	
2	13番 佐藤聡一	<p><b>1. NHK大河ドラマ「真田丸」を活用した本市の観光施策について</b></p> <p>NHK大河ドラマ「真田丸」を活用した本市の観光施策について質問する。</p> <p>(1) 今年のNHK大河ドラマ「真田丸」は、近年の大河ドラマの中でも高視聴率であり、さらに人気脚本家である三谷幸喜氏が手掛けていることもあり、メディア等、各方面から数多く取り上げられていると認識している。</p> <p>本市においても、「みちのく真田ゆかりの地事業」</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	13番 佐藤 聡 一	<p>をはじめ、NHK大河ドラマ「真田丸」を活用した観光施策を数多く展開すると思われる。特に市長は、白石市の歴史に精通されており、これまでも本市を「甲冑のまち」として市外や県外に発信してこられた。</p> <p>そこで、NHK大河ドラマ「真田丸」を活用した本市の観光施策について、市長の思いと意気込みを伺う。</p> <p>(2) 昨年12月の市議会定例会において補正予算として上程された「みちのく真田ゆかりの地事業」の現在の進捗状況と今後の展開を伺う。</p> <p>(3) 「みちのく真田ゆかりの地事業」の事業は、今年度の事業とされているが、新年度以降の事業継続、またはNHK大河ドラマ「真田丸」を活用した新たな観光施策を考えておられるのかを伺う。</p> <p><b>2. 白石市の小中学校における主権者教育について</b> 白石市の小中学校における主権者教育について質問する。</p> <p>選挙権が18歳に引き下げられるのを前に、主権者教育の必要性が論じられている。</p> <p>先日、当市議会と（公社）白石青年会議所との間で開かれた一般会議において、主権者意識向上の必要性について意見交換がなされた。</p> <p>また、新聞各紙でも若者の政治に対する関心についての意識調査や、各学校での主権者教育の事例などが盛んに報じられている。</p> <p>昨年6月の議会においても、伊藤勝美議員が主権者教育について質問され答弁をされておりましたが、改めて質問をする。</p> <p>現在、教育長は小中学生の主権者教育について、どのような所見を持っているのかを伺う。</p>	
3	16番 松野 久 郎	<p><b>1. 平成28年度施政方針について</b></p> <p>(1) 平成27年10月に「白石市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、着実に施策の実行を図るために、厳しい財政状況化においても持続可能な効率的で質の高い行政サービスの実現を目指すことを基本理念とし、新たな白石市行財政改革推進計画「集中改革プラン【第三次改訂版】」を策定したことを踏まえ質問いたします。</p> <p>① 平成18年2月に「白石市行財政改革推進計画(集中改革プラン)」が策定され、平成25年2月から今年度まで取り組まれた【第二次改訂版】により行財政改革が行われてきましたが、主な成果について所見を伺います。</p> <p>② 平成28年度から取り組む【第三次改訂版】は、基本方針に掲げたとおり重要な行政改革の取り組みとっております。</p>	市 長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	16番 松野久郎	<p>今後3年間のロードマップが示されましたが、その中でも優先的に行わなければならない取り組みもあると思いますが、所見を伺います。</p> <p>(2) 放射能対策では、「白石市除染実施計画」に基づき取り組んでいただいておりますが、次の点について伺います。</p> <p>① 平成27年10月1日から12月10日まで除染作業を実施した民有地の事後モニタリングを実施し、除染効果が維持されていることを確認したとありますが、戸別においては、郵送によりそれぞれ家庭にモニタリングした数値の通知がありました。通学路についても、事後モニタリングをお願いしましたが、モニタリングを実施したのか、実施した場合の数値はどうだったのか、また、学校や通学路該当児童の父兄等へ周知をどのように行われたのか伺います。</p> <p>② 今後も空間放射線量の測定や食品などの放射能濃度の測定を継続実施するとありますが、今後の放射能対策について、具体的な取り組みを伺います。</p> <p>(3) 少子高齢化への対応は、待ったなしで行われなくてはなりません。高齢者支援に対しての取り組みについて伺います。</p> <p>① 厚生労働省は、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築整備を促していますが、市長の目指す構築構想についての所見を伺います。</p> <p>(4) 国が策定した「インフラ長寿命化基本計画」について伺います。</p> <p>① 本市も計画を策定し、効率的な行財政運営を図るとありますが、国のロードマップに歩調を合わせ、公共施設を長期的な視点を持って、更新・統廃合・長寿命化など、総合的で計画的な管理を推進するための判断基準や長期的な視点とは、具体的に何年先を見込んでの視点なのか伺います。</p> <p>② 老朽化に起因する重要インフラの重大事故を「ゼロ」にするために、「行動計画」とともに事前の「点検・診断」の実施が必須と考えますが、現在、本市の公共施設で早急に対策を必要とする物件があるのか、あるとすれば、その施設数及び対策等について伺います。</p>	
		<p><b>2. 一般会計の補助費等について</b></p> <p>(1) 平成28年度一般会計歳出の当初予算においても、補助費等の構成比は23.3%と大きいウエイトを占めております。補助費等は、「報償費」「負担金」「補助金」「返還金」に決算統計上大きく4つに分類さ</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	16番 松野久郎	<p>れますが、「補助金」について質問いたします。</p> <p>① 毎年継続して補助金を交付している同一補助事業者（同一団体）は、何事業者（何団体）あるのか、また、その補助金の総額は幾らになるのか伺います。</p> <p>② 補助金給付に当たっての補助事業者（団体）の選考は、白石市補助金等交付規則により行っていることと思います。</p> <p>また事前審査として、白石市補助金等審査会を設置できるとありますが、実際どのような基準で補助事業者（団体）の選定を行い、給付金の算定基準をどのようにされているのか伺います。</p>	
4	1番 佐藤龍彦	<p><b>1. 子供の貧困について</b></p> <p>日本は、OECD加盟国の中でも「相対的貧困率」が先進国の中でも高い国になっています。子供の6人に1人が貧困ラインを下回るという現状があります。</p> <p>背景には、格差の拡大があり、離婚などにより、ひとり親世帯が増加していることに加えて、政府による規制緩和の影響で企業が正社員を減らし、賃金の安い非正規労働者をふやしていることが貧困率を押し上げている要因になっています。</p> <p>ひとり親家庭の2人に1人が貧困に苦しんでいる状況、そして、特に母子家庭が経済的に困窮しているという調査結果が出ています。就学援助を受けている小学生や中学生の割合も上昇が続いています。</p> <p>そこで伺います。</p> <p>(1) 市長は、子供の貧困に対してどのような認識を持っているのか伺います。</p> <p>(2) 本市の子育て世帯の子供の人数の分布はどのようなになっているのか伺います。</p> <p>(3) 子育て世帯の平均所得はいくらなのか伺います。</p> <p>(4) 「相対的貧困率」の貧困ラインを下回る世帯数と子供の人数について伺います。</p> <p>(5) ひとり親世帯の貧困ラインを下回る世帯数と子供の人数について伺います。</p> <p>(6) 就学援助を受けている世帯数について伺います。</p> <p>(7) 今後、どのような支援策を考えているのか伺います。</p>	市長
5	14番 佐藤秀行	<p><b>1. 施政方針について</b></p> <p>「第5次白石市総合計画」の目標の1つ、「豊かな感性と人間性を育み、伝統文化を継承するまち」の中で、学校教育の充実は、確かな学力向上のため、学校ICT環境機器を活用した学習への取り組みを推進するとともにすべての小中学校で1学級35人以下の少人数学級を実施し、子供たち一人ひとりにきめ細かな指導を行い、教育効果を高めます。さらに、市独自に全児童を対象とした学力テストを引き続き行い、学力の全体的</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	14番 佐藤 秀行	<p>な底上げを図ります、とあります。 このことから次の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 市独自の学力テストとはどのようなものなのか、また、学力の全体的な底上げを図るということですが、過去2年間を振り返っての成果と課題、そしてそのことを踏まえた今後の取り組み等についてお伺いします。</p> <p>(2) 学校ICT環境機器を活用した学習への取り組みを推進するとありますが、タブレットパソコンの今年度も含めた各小中学校への配備計画についてお伺いします。</p>	
		<p><b>2. 福岡線バス車内アナウンスについて</b></p> <p>白石市は、平成26年8月から株式会社カプコンの協力のもと、白石市民バス1台に「戦国BASARAキャラクター片倉小十郎×真田幸村」をラッピングしたバスを運行しています。そして、市民バスの車内アナウンスを、戦国BASARAで片倉小十郎役を担当し、平成26年10月から白石アンバサダーに就任いただいた、声優森川智之さんの声により行うことになり、平成27年8月3日より、小原線全線を対象路線とし、停留所案内のほか、白石城や片倉家御廟所などの沿線観光案内を車内放送しています。実際、その声を聞きに乗車する観光客もいるということを知りました。</p> <p>このことから次の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 白石市の文化、歴史、自然、伝統工芸などの魅力を発信し、さらなる観光客の拡大につなげるためにも、他の路線、特に鎌先温泉さらには弥治郎こけし村等を有する福岡線の車内アナウンスについて、同様な取り組みができないものかお伺いします。</p>	市長
		<p><b>3. 白石川緑地公園陸上競技場について</b></p> <p>白石川緑地公園陸上競技場は、日本陸上競技連盟公認の第4種陸上競技場になります。トラックは8レーンで土質のものです。各種大会を開催する上で、本来であれば全天候型舗装のトラック8レーンであることが望ましいと思います。ちなみに、宮城県の各郡市・地区中学校総合体育大会陸上競技会については、18の郡市・地区が8カ所の競技場で開催しています。白石刈田地区は白石川緑地公園陸上競技場を使用していますが、その他の競技場はすべて全天候型舗装の競技場を使用しています。さらに最近では、トラックの色をレンガ色から、集中力を高める等の理由で青色になっている競技場もふえているのが現状です。このことから次の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 毎年、本市の陸上競技場で大会が開催されます。生徒の学習環境、施設設備の充実という観点からも、400mトラック8レーンを、現在の土質から全天候型舗装にすることを検討していくことができないも</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	14番 佐藤 秀行	<p>のかお伺いします。</p> <p><b>4. 教科書採択について</b>  教科書は、正式には「教科用図書」と言い、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの学校で、教科を教える中心的な教材として使われる児童生徒用の図書のことです。  多くの検定教科書の中から、どの教科書を使って子供たちに教えるかを決めるのが「採択」です。採択の権限は、公立学校においては、所管の教育委員会にあります。  先日、教科書会社12社が、検定中の教科書を教員らに閲覧させていた問題が新聞に載りました。「教科書採択の公正確保」の観点からも、大変残念な出来事でした。  宮城県教育員会は、文部科学省の調査で、教科書会社2社から謝金を受け取った可能性のある県内の校長・教頭ら管理職を含む数十人を対象に、近く個別の聞き取り調査に着手すると発表し、また、県内8地域ごとに行われた採択への影響の有無も調べるということでした。  このことから次の点についてお伺いします。  (1)「教科書採択」までの一般的な流れ、また、この件について、率直なご意見・ご感想をお伺いします。</p>	教育長
6	11番 四竈 英夫	<p><b>1. 平成28年度施政方針について</b>  (1) 自主財源である市税の収納率が0.5%向上したとありますが、今後、さらに収納率を上げるための対策と滞納整理の実施について伺います。  (2) 人口減少などによる公共施設の利用需要の変化に合わせて、公共施設の更新・統廃合・長寿命化など総合的な管理推進計画を策定するとありますが、具体的にはどのようなものでしょうか伺います。  (3) 震災から5年が経過し、空間放射線量は、本市の除染計画に基づき実施した結果、漸次低減していることは誰しもが安堵していることだと思います。  そうした中で、水稲への塩化カリの散布がなくなったことは、農家にとっては朗報であります。散布の手間と労力、そして時間が軽減されたことで、経費の削減につながるものと思います。  しかし、散布は中止しても放射能濃度の測定は継続するものと思いますので、測定の規模等について伺います。  (4) 人口減少を抑制し「消滅可能性都市」からの脱却を図り、平成31年度まで「出生率」の向上と「社会減」の抑制を図るとしておりますが、具体的な施策について伺います。  (5) 白石城さくらまつりをはじめ、四季折々のイベントを開催し、白石の魅力を発信して交流人口の拡大</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	11番 四 竈 英 夫	<p>を図ることが述べられております。各種イベントをさらに盛り上げ、市民の期待にこたえとともに賑わいの創出を図るため、次の点について伺います。</p> <p>① 白石城さくらまつりの期間中、白石城周辺には屋台などが出店しておりません。出店を奨励するなどして、かつての賑わいを取り戻すことは出来ないでしょうか。</p> <p>② 白石夏まつりの花火大会は、パレードと同じ日に行われていますが、ゆっくり花火を鑑賞したいという声があります。以前のように、花火大会を別日程で単独のイベントにできないでしょうか。</p> <p>(6) 企業誘致につきましては、「白石インター工業団地」に「セコム工業株式会社」が新たに団地を取得されたとのことであり大変喜ばしいことだと思います。同団地は、すべて取得が完了したものと思われませんが、今後、新たな工業団地造成のお考えがあるのか伺います。</p> <p><b>2.「かわまちづくり」構想について</b></p> <p>国土交通省は、平成19年に河川が持つ歴史・文化・景観などの資源をいかし、官民連携のもとで立案された水辺の整備・利活用計画に基づき、まちと水辺が融合した空間の形成を図りたいとして、「かわまちづくり支援制度」を打ち出しております。</p> <p>ソフト面での支援としては、民間事業者による河川敷のイベント広場やオープンカフェ等への利用制度等を活用し、河川管理者としての国が「地域づくりのためのフォローアップ」を積極的に支援すること。</p> <p>ハード面では、治水及び河川利用上の安全安心に係る河川管理施設の整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援するとしています。</p> <p>本市は、水と緑と空気のきれいなまちがキャッチフレーズになっております。したがって、川と人とのかわりあいを通じて、地域の賑わいの創出を図ることも重要な施策と思われれます。</p> <p>そこで、次のことについて伺います。</p> <p>(1) 「かわまちづくり支援制度」の具体的な内容について</p> <p>(2) この制度に取り組む場合、本市としてはどこの地区をイメージしておりますか。</p> <p>(3) 実現した場合の時期(年度)はいつ頃でしょうか。</p>	市長
7	7番 管 野 恭 子	<p><b>1. 学校施設の適切な環境整備について</b></p> <p>(1) トイレの洋式化の推進について</p> <p>生活環境の変化により、住宅等のトイレの洋式化が進み、子供の多くがその環境の中で生活をしている。学校施設は、子供たちが一日の大半を過ごす場であり、また、災害時には避難所としても利用されることも考えれば、洋式化の推進を積極的に図るべ</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	7番 管野恭子	<p>きと考えるが見解を伺う。</p> <p>(2) 教室等への冷暖房の設置促進について 健康的な空間温度の中で学ぶことは、授業効率につながるものであり、特に気象の温暖化により高温日がふえていることから、冷房は必須と考える。子供の健康と学びの向上のために、教室等への冷暖房設置を早急に実施すべきと考えるが見解を伺う。</p> <p><b>2. 特定不妊治療助成拡大について</b> 現在、本市における標記助成は平成21年から現在まで年10万円を上限に実施しており、国・県では通常、年上限15万円の支援がある。 保険適用でない当治療だけに、大事な支援策である。登米市においては、1年に2回までの治療に各10万円で計20万円を限度に助成している。高額な負担が伴う治療であるので、本市においても、この助成費の拡大を検討すべきと考えるが見解を伺う。</p>	市長
8	15番 山田裕一	<p><b>1. 平成28年度施政方針について</b></p> <p>(1) 平成31年度まで「出生率」の向上と「社会減」抑制のための各種施策を積極的に実施していく、とあるが現実的に考えて、「出生率向上」は、極めて難しいと考える。市長は、あくまでも「出生率向上」を目指した施策を考えているのか所見を伺いたい。</p> <p>(2) 空き店舗対策として「空き店舗等対策事業補助金」を創設し、白石商工会議所や関係機関との緊密な連携のもと、創業の支援に努めるとあるが、これまでも空き店舗対策には、さまざまな課題があり、難航していたと感じている。 平成28年度は、機構改革により新たに企業立地定住促進課を設置し、さらなる定住化に向けた大きな流れを期待したいが、空き店舗対策に向けた市長の所見を伺いたい。</p> <p>(3) 益岡公園野球場の大規模な改修工事により、どのような野球場になるのか。また、花に彩られた野球場とは、どのような野球場か。野球場の大規模改修には、市民や関係者の声を反映することは可能なのか市長の所見を伺いたい。</p> <p>(4) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに参加する各国選手が、選手村入りを前に最終調整する事前合宿の誘致について、本市と柴田町は、仙台大学と連携し、大学施設も活用しバスケットボール・水泳・新体操・柔道など幅広い競技を想定し、三者による競技の絞り込みを行う予定、との報道がされた。 県内では、すでに大筋で誘致がほぼ決定している自治体もあると聞いている。そこで、本市の事前合宿誘致の現状と見通しについて、市長の所見を伺いたい。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	15番 山田裕一	<p><b>2. 交差点のカラー舗装化について</b></p> <p>交通事故は最悪、一瞬で尊い人命を奪ってしまうことにもなる。本市においても、各地区の交通安全協会や交通指導隊の皆さんが、街頭などでさまざまな交通事故防止の活動をしていただいている。</p> <p>本市における平成27年1月～12月の累計では、死亡者が1名、人身事故が68件、負傷者は重症者を含め87名、物損を含めた事故発生件数が738件である。つまり、一日平均で2件以上の交通事故が発生していることになる。</p> <p>そこで、交通事故防止策として、交差点をカラー舗装にすることで事故抑止の効果があるとの実証データがあると聞いた。本市も交通事故多発の交差点や見通しの悪い交差点などを計画的にカラー舗装にしてはどうか、市長の所見を伺いたい。</p>	市長
9	9番 大野栄光	<p><b>1. 平成28年度施政方針について</b></p> <p>急速な少子高齢化や地方の人口減少を是正するため「まち・ひと・しごと創生法」が制定された。</p> <p>本市においても、少子化と人口減少はとまらず、「消滅可能性都市」とされている。</p> <p>そこで、昨年10月に白石版地方創生総合戦略である『白石市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」と総合戦略』を策定し、人口減少の抑制による「消滅可能性都市」からの脱却を目標としてあるが、そこでお尋ねいたします。</p> <p>(1) 国は出生率を1.4人から1.8人としている。本市において「出生率」の向上と施策を講じているが、具体策をお尋ねします。</p> <p>(2) 集中改革プラン【第3次改訂版】が策定され、「社会減」抑制のための各種施策が発表されたが、これまでに行ってきた施策との違いはあるのかお尋ねします。</p> <p>(3) 民間機関の「日本創成会議」の人口統計は、本市の人口減少を指摘し、消滅自治体としている。市民にも問題提起し、解決の策は見い出せないものか所見を伺います。</p>	市長
		<p><b>2. ふるさと納税について</b></p> <p>産業の活性化は、白石の歴史や自然の魅力を全国に発信し、「ふるさと納税」で応援いただいた寄附金を活用し、子育て支援や歴史のまちづくり、観光振興などを促進する。「メイドイン白石」を全国に広め、地元特産品を返礼として活用し、産業の活性化につながるとあるが、以下の点についてご所見を伺います。</p> <p>(1) ふるさと納税（寄附金）の目標額の設定や財源としての活用度について伺います。</p> <p>(2) 本市の特産品のほかにも、多くの観光資源が潜在している。鎌先・小原温泉の泊まり券やきつね村、</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	9番 大野栄光	<p>グリーンパーク、スキー場、こけし村といった自然コースも魅力ではないか。スパッシュランドの利用券、自然の中の子ぎつねは愛らしく外国人も多く来園している。返礼品に組み合わせて入れても良いと思うが伺います。</p> <p>(3)「白石城さくらまつり」「鬼小十郎まつり」「蔵王高原マラソン大会」等、全国から来白される方たちにパンフレットを配布し、「ふるさと納税」を理解してもらい、帰りには街中の商店街にて返礼品をお土産に帰っていただくのも一つの策と思うが伺いたい。</p> <p><b>3. オリンピック招致について</b>  平成27年12月、本市と柴田町・仙台大学が「2020年東京五輪・パラリンピック」事前キャンプなどを連携して招致しようと合意し、両市町が協議会を設立し取り組むとあるが、以下の点を伺います。</p> <p>(1)本市の魅力を知ってもらうに大変喜ばしいことで、活性化にもつながり期待するところです。  外国人選手と地域住民との交流を促す「ホストタウン」構想として招致を行うのかお尋ねします。</p> <p>(2)ハーストビル市との姉妹都市でもある本市、50メートルプールを備え、小原温泉も宿舎となり得る。  ぜひ、オーストラリアのスイマーが強化合宿に選んでいただきたいと思うが所見を伺います。</p>	市長
10	3番 伊藤勝美	<p><b>1. 平成28年度施政方針について</b>  (1)行財政改革における経済振興対策について  風間市長におかれましては、市長に就任をされ、はや12年の時が流れようとしており、「第5次白石市総合計画」に掲げた施策を通し、「共汗・共学・共生」を基本理念とした市民総参画のまちづくりを推進して、次の世代に誇りを引き継ぐことができる「ふるさと白石」の実現を目指すため、日夜奮闘されていることに敬意を申し上げるものであります。</p> <p>今日においては、持続的な自治体経営を確固たる状況にするため、市当局、議会それぞれにさらなる努力が、あるいは市民に対する責務が求められ、また、長引く経済低迷、少子高齢化による生産年齢人口の減少等の流れの中、確かな行政運営も求められております。</p> <p>そのため、新たな白石市行財政改革推進計画「集中改革プラン【第3次改訂版】」を策定し、業務の効率化、歳入の確保、歳出の削減など、より一層の行財政改革を推進し、健全な行財政運営に取り組むことは、必要不可欠なことであると思えます。</p> <p>しかし行財政改革は、ややもすれば市民にとって閉塞感を与え、民力の低下や夢・希望を失う要因となり得ることも考えられます。昨年3月、「第1回市民と議会の意見交換会」を開催したところでありましたが、</p>	市長 教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	3番 伊藤勝美	<p>どの会場におきましても、本市の経済振興に関する意見・要望が多く述べられており、まさに、本市における最大の行政課題であると考えています。</p> <p>国政においては、本来、均衡ある国土発展の責務があると思いますが、現時点においては、地方に住む我々にとって期待できる政策はあまり見当たらないと言っても過言ではないかと思えます。国の政策は重要ではありますがけれども、今日的な流れは、「地方創生」に掲げられているように、自治体の主体性が問われ、情報の発信、または自助努力等により、大きく変わることの持続性を求められています。</p> <p>つまり、人口・経済・地域社会などの課題解決につなげるためには、自治体の独自性のある施策が必要だということではないでしょうか。また、今後は、地域が交付税や公共事業を当てにした与えられる経営から、地域でつくる・地域で稼ぐという自立した地域経営への転換が不可欠となり、どの方向にかじを切り、どの戦略で改革を進めるか、自治体の手腕や首長のリーダーシップいかんによって地域の経営に大きな差が生まれることとなります。これからは、本当の自治体の実力が試される時期を迎えると考えております。</p> <p>また、白石市に住むすべての人々が、豊かな経済生活を営み、すぐれた文化を発展し、人間的魅力ある社会を持続的に安定的に維持する社会的共通資本を構築することが、我々議員に課された使命でもあると考えています。</p> <p>白石市に住んでよかったと感じていただくためには、多くの要素が必要と思われそうですが、まずは、一定の望ましい経済環境をつくり上げることが重要ではないかと思えます。このまちに誇りを持ち、若者に夢・希望を持っていただくためにも、産業振興により明確な方針・施策が求められています。</p> <p>これらを踏まえ、以下の点についてお尋ねいたします。</p> <p>① 本市における地域経済の実態をどのように捉えているのか、お伺いします。</p> <p>② 産業振興のための方策を具体的にどのように考えているのか、お伺いします。</p> <p>(2) インフラ長寿命化計画について</p> <p>国は平成25年11月に「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、各地方公共団体に対して、その行動計画となる「公共施設等総合管理計画」の策定に取り組むよう要請をしており、策定にかかる経費を支援するとしております。</p> <p>施政方針で、国が策定した「インフラ長寿命化基本計画」に歩調を合わせ、本市においても、人口減少などによる公共施設の利用需要の変化に対応すべく、公共施設などの全体の状況を把握し、長期的な視点を持</p>	

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	<p>3番 伊藤勝美</p>	<p>って更新・統廃合・長寿命化など、総合的で計画的な管理を推進するための計画を策定して、効率的な行財政運営を図ります、とありますが、以下の点についてお尋ねします。</p> <p>① 本市においても、インフラを含む公共施設の老朽化が進んでおり、適切なタイミングで改修・建て替えを行うことは、市民に安心・安全なサービスを提供するうえで最優先とすべき課題であると考えますが、計画の具体的なスケジュールはどのようなになるのか、お伺いします。</p> <p>② 今後、計画策定に当たっては、公共施設を利用あるいは支えていただいている多くの市民と行政が問題意識を共有し、将来の公共施設等のあるべき姿について、幅広い議論を進めるために、施設に関する情報を積極的に開示していくことが必要不可欠と考えますが、市民の方々や議会に対してどのような対応をなさっていくのか、お伺いします。</p> <p>③ 本市に限らず、全国的に人口減少時代に突入していることは事実であります。人口の減少は、静かなる危機と呼ばれるように、私たちの日常生活にとっても深刻な問題であり、経済規模の縮小が一旦始まると、さらなる縮小を招くという縮小スパイラルに陥るリスクがあるといわれております。そこで、「インフラ長寿命計画」における上・下水道整備、農業集落排水施設整備、合併浄化槽整備の計画について、今後の白石市の人口将来推計と上水道・下水処理計画人口との整合性はどのように捉えるのか、また、今後の整備の見通しはどのように捉えているのか、お伺いします。</p> <p>(3) A L T 英語教育について 英語教育の推進についてです。最近、インターネットの普及や外国人労働者の増加など、外国に行かない人でも英語の重要性は高まってきております。TOEFL、この英語のTOEFLの平均スコアはアジア圏でも日本は下から2番目に低いという報告があります。</p> <p>また、多くの非英語圏で小学校から英語教育を必修化して推進しているのが現状のようです。本市でも28年度から、新たに小学校にA L Tを配置し、保育園や幼稚園にも派遣して、今日的課題に対応した教育の充実策として、幼児期から英語に触れ親しむ英語教育活動の推進を掲げております。</p> <p>これからの社会というものは、当然のことながらさまざまな分野におきまして、グローバル化・国際化、これは必ず進展をしまいたします。</p> <p>白石の将来のある子供たちにとって、今からの英語教育については欠かせない教育だというふうに考えま</p>	

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	<p>3番 伊藤勝美</p>	<p>すが、英語教育活動の推進について、その目的と取り組み内容は具体的にどのようにされていくのか、お伺いします。</p> <p>(4)安心して子どもを産み育て、心やすらかに暮らせるまちについて  施政方針における子育て支援では「赤ちゃん応援事業」として、14回の妊婦検診の費用を助成する「妊婦健康診査費助成事業」を継続し、また最長5年間、不妊治療の医療費の一部として年10万円を上限に助成する「特定不妊治療費助成事業」を継続するとしていますが、今後においても、さらなる事業の推進を図っていただきたいと思えます。</p> <p>ところで、「安心して子どもを産み育て、心やすらかに暮らせるまち」については、いささか疑問があります。それは分娩についてであります。</p> <p>先月1月20日に公立刈田総合病院内において、「産科医療に係る研修会」が開催され、「公立刈田総合病院における今後の産科医療の方向について」と題する大橋院長と、「産科医療の現状と課題について」と題する東北大学の八重樫教授の講演がありました。</p> <p>講演内容は、深刻な産科医の不足になっていること。さらに、その原因は、産科医の勤務の過酷さと、産科での訴訟が多いことであることが述べられ、また、その勤務の過酷さから産科医を目指すことが敬遠される傾向にあり、出産や育児を機に離職をせざるを得ない女性医師がふえるなどのことから、今後、さらなる医師不足が懸念されるということでした。</p> <p>また、産科医の負担はすでに過重であり、病院・医院（クリニック）を問わず、厳しい状況下で、産科医や助産師・看護師等のスタッフはぎりぎりのところで踏みとどまっている状態であることが報告されました。子育て支援の前に、体制を整えなければならないのが産科医療であります。</p> <p>これから結婚しようと思っている青年たち、子供を育てたいと願っている夫婦が、白石市を住みづらいまちだと離れていくことがないように、産科医療体制の構築は急がなければならないと考えます。</p> <p>① 講演にあるような産科医療の現状と課題により、公立刈田総合病院における分娩がなくなるということですが、見解をお伺いします。</p> <p>② 地域の皆さんがより安心して、お産に臨める環境を提供していただきたいと考えますが、講演で報告された環境の中では、大変難しいことは理解できます。地域での安全なお産を確保するにはどのようになされるのか、見解をお伺いします。</p> <p>(5) 地域包括ケアシステム構築への進捗状況について  厚生労働省においては、団塊の世代が75歳以上とな</p>	

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	<p>3番 伊藤勝美</p>	<p>る2025年（平成37年）をめどに、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進しています。</p> <p>地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要であるとされています。</p> <p>本市においても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう「地域包括ケアシステム」の構築を目指し、在宅医療と介護の連携や認知症施策、日常生活支援に係る多様なサービスの創出や団体の育成に努めるとともに、市民による自主的な介護予防教室など、「通いの場」づくりへの支援などを推進します、と施政方針で述べられています。</p> <p>そこで、</p> <p>① 地域包括ケアシステムを実現するためには、利用者のニーズに応じた適切な組み合わせによる包括的なサービスの提供と、入院・退院・在宅復帰を通じて切れ目ない継続的なサービスの提供が行われることが必須とされていますが、本市の地域包括ケアシステム構築への進捗状況はどのようになっているのかお伺いします。</p> <p>② 地域包括ケアシステムの構築は、地域の実情に応じたものが求められますが、推進していく中で、課題になっていることがあればお聞かせください。</p> <p>(6) 農林業の振興について</p> <p>施政方針で「農林業の振興については、平成27年10月のTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）交渉の閣僚会合での大筋合意で、協定発効後には関税の削減や撤廃に伴い、日本の農林業にも大きな影響があると予測される。国や県に対し、十分な対策を講じるよう要望するとともに、国の施策としてすでに進めている「農地中間管理事業」を活用した農地集積を推進して、生産現場の強化と耕作放棄地の発生防止に努めます」とありますが、TPPが農業への影響が懸念される一方、農産物や加工食品の値下げなど、期待と不安が交錯している状況なのではないかと考えます。</p> <p>農業は今、大きな転換期を迎えておりますので、市にとって最良の農業政策・農家支援策を進めていただきたいと思っております。</p> <p>以上のことから、質問します。</p> <p>① 「農地中間管理事業」を活用した農地集積を推進するとありますが、</p> <p>i) 進捗状況はどのようになっているかお伺いします。</p> <p>ii) 推進するにあたり課題等があれば、何かお聞</p>	

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	<p>3番 伊藤勝美</p>	<p>かせください。</p> <p>② 耕作放棄地について</p> <p>i) 耕作放棄地の現状と本年度における耕作放棄地の解消は、どのようになっているのかお伺いします。</p> <p>ii) 農地は農業に使うという農地法の大原則があるものの、名ばかりの農地では何も生まれません。増加傾向にある耕作放棄地に対する今後の取り組みについて、見解をお伺いします。</p> <p>iii) 農政改革で掲げる農業委員会組織改編がありますが、農業委員会とは、特定の専門分野では、常勤公務員以外の事情精通者が行政に関与する必要があることから設けられた行政委員会の1つで、選挙により選ばれた農業者が非常勤の公務員として行政に携わる制度です。</p> <p>このほど、農業委員会法の改正により、「農業委員会業務の重点化、農業委員の選出方法の変更、そして農地利用最適化推進委員の新設」と農業委員会改革・見直しが打ち出されてきましたが、本市は、これらをどのように受けとめ、見直し策を進めようとしているのかお伺いします。</p> <p>(7) 地域コミュニティの活性化について</p> <p>施政方針において、地域コミュニティの活性化については、「第5次白石市総合計画地域計画」の各地区のまちづくり宣言を実現するため、創設4年目となる「まちづくり交付金」を活用した、市民が主役の地域づくりを促進します、と述べており、今後においてもさらなる支援をご期待いたします。</p> <p>さて自治会は、住民等によって組織される共通の利益の促進・親睦・地域自治のための任意団体という位置づけにあり、自主的に組織された団体として、地域住民の生活に密着したさまざまな活動を行っております。</p> <p>それから、自治会の規模や世帯構成、地域の地理的・自然的な状況によって異なりますが、安全が保たれ、安心して快適に暮らせる地域にしたいという基本的な思いは、どの自治会にも共通しているものだと考えます。</p> <p>一方、現在において、安心・安全、快適な自治会をつくっていくためには、防火・防犯・防災対策、地域の高齢化問題、環境美化など、たくさんの課題が山積しております。</p> <p>しかし、これらの課題は、「行政だけに頼らず、自分たちでできることは自分たちで解決していこう、そのためには同じ地域に住んでいる者同士が協力し合い、知恵を出し合って取り組んでいこう」と、ほとんどの自治会は日々努力をしているのではないでしょう</p>	

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	3番 伊藤勝美	<p>か。</p> <p>地域が元気になれば、白石市全体が元気になるというのが、私の持論であります。各自治会が中心となって、それぞれの地域をより住みよくしていくことが、白石のまち全体を住みよくしていくことにつながり、そのことが、白石市の魅力を高めることになると考えます。だからこそ、自治会が少しでも活動しやすい環境を、行政としてサポートしていくことが今極めて重要な施策であると考えております。</p> <p>しかし、そうした反面、自治会の現実として、自治会内の人口減少と高齢化、社会情勢の変化や市民の価値観の多様化などによる地域コミュニティ意識の変化などによって、自治会加入率の低下、自治会役員の負担の増加、役員のなり手不足など、自治会活動は多くの課題を抱えるようになり、数年後には、自治会の維持・存続すら困難な状況になるのではないかと危惧される自治会もあります。</p> <p>以上のことを踏まえお尋ねいたします。</p> <p>① 自治会が現在どのような課題に直面し、それらの課題をどのように把握しておられるのか、自治会に対する行政の認識をお伺いします。</p> <p>② 自治会は任意団体ですので、行政がその内部にまで口を挟むことは限界があることは承知しております。</p> <p>しかし、行政との結びつきが強いだけに、自治会活動の円滑な運営は、まちづくりを進めるうえで密接に関係しております。</p> <p>そこで、今後の人口減少化における自治会の活性化や支援策について、行政としてどのように考えておられるのか、お伺いします。</p>	
		<p><b>2. 携帯・スマホについて</b></p> <p>昨年、仙台市教育委員会と東北大学による「学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト」によると、「平日にLINE等の無料通信アプリを使用すると、睡眠時間や家庭学習時間には関係なく、使用時間に応じて学力が低下する」とする調査結果を発表しています。</p> <p>プロジェクトでは、仙台市標準学力検査の成績と、子供たちの生活習慣やさまざまな生活環境の関連の解析を行っており、2013年度はプロジェクトの成果として「スマホや携帯を長時間使用するといくら勉強していても成績が下がる」という結果を得ているようです。</p> <p>また、2014年度は、LINEなどの通信アプリの影響についても質問項目を加えて、通信アプリの使用時間と勉強時間、数学の平均点との関係を分析したところ、学力低下は、アプリを使ったことによる直接の効果である可能性が高いことも発見したとのことです。</p> <p>「平日に30分未満しか勉強しない」生徒の場合、通信アプリを使わない（スマホや携帯を持っていない）</p>	教育長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	3番 伊藤勝美	<p>生徒の数学の平均点は約61点だが、3時間以上使う生徒の数学の平均点は50点以下に急激に低下していた。そのため、勉強時間にかかわらず、「通信アプリの使用時間が長くなるほど生徒たちのなかから、学校で習得した学習内容が消えてなくなった」と考察し、「分析を行った研究チームとしても、非常に衝撃的な結果」であったとしています。</p> <p>それから、愛知県刈谷市の全21校の小中学校で21時以降は利用禁止にする呼びかけを行っており、福岡県春日市でも同様で、22時以降は禁止となっているようです。そこで、</p> <p>(1) 「学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト」が、スマホや携帯を長時間使用すると「学力が低下する」とする調査結果を発表していますが、所見をお伺いします。</p> <p>(2) 市の教育委員会も何らかの対策をした方が良いのではないかと思います。見解をお伺いします。</p>	
1 1	2番 保科善一郎	<p><b>1. 市内の東北自動車道にスマートインターを設置する件について</b></p> <p>白石市の地方創生総合戦略の起爆剤として、白石市内にスマートインター（ETC専用の追加インターチェンジでコンパクトな整備が可能な施設）を設置する運動を起こす時期と考え質問いたします。</p> <p>本市は、「日本創成会議」が発表した少子化と人口減少により、存続が危ぶまれる「消滅可能性都市」の一つとされており、総合戦略を策定し安定的で持続可能な暮らしを目指して推進しているところであります。</p> <p>しかしながら、基幹産業の生産額は減少し、頼みの観光客入込数も減少、特に宿泊者数の落込みが激しく回復していないのが現状です。</p> <p>白石インター工業団地内への一連の企業進出の効果は、徐々に本市の産業基盤の強化や生産性の向上に寄与してくると考えられます。</p> <p>高速道路のインターチェンジは市内最北端にありますが、最近の研究でインターチェンジの効果は最大5キロから10キロ以内と言われております。</p> <p>次のインターチェンジまでの間隔が20キロもあると、通過地域にストロー効果と呼ばれる過疎化現象が発生するとも言われております。</p> <p>白石市の南部地域にスマートインターを設置することで、本市の幅のある開発と高速道路を起点とした地域連携が活発になり、仙南地域の産業振興の起爆剤になり得ると思います。</p> <p>本市は、高速道路や新幹線などの高速交通網や主要幹線道路網を有しておりますが、それらを有効に活用するアクセスを研究することが重要と考えます。</p> <p>最近、地方創生と地域活性化のため「スマートイン</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
	2番 保科善一郎	<p>ターチェンジ」「道の駅」などの整備に着手する自治体がふえてきております。</p> <p>国・県も補助制度を創設し、事業推進する方向に動いております。</p> <p>県内の近隣市町村でも、数カ所の自治体が設置に動いて事業計画の認可を得たところも出てきました。</p> <p>(1) 東北自動車道の白石市南部にスマートインター設置を考える時期と思いますが、所見を伺います。</p> <p>(2) 地方創生は地域の競争でもあり、スマートインターは、その効用から優先度が高いと思いますが、所見を伺います。</p> <p>(3) スマートインターの広域的活用により、仙南地域の連携をはかることにより本市の産業の振興に厚みが増すと考えますが、所見を伺います。</p>	